

2011.08.16

ご支援をいただいたみなさま

お父さんたちのネットワーク世話人
石垣政裕

支援物資のご報告No.14

－香川県陶(すえ)親父の会からの支援金－

南相馬へ

原子炉の冷却が進んでいるということで『もう一段落』などと考えていると、地域の人々の苦悩が見えなくなってしまう。夏の省電力で右往左往しているうちに稲わらからの牛肉の放射能汚染問題でがつんと殴られたように、私たちはまだまだ事故の最中であり、私たちもまた当事者でもあることをしっかり忘れないでいる必要があります。

こここのところ秋になると職場のスタッフや留学生たちと、ダイコン掘りに南相馬市にでかけていました。今年はダイコン掘りも早々とあきらめました。

7月中旬、私たちは南相馬市のある保育園に向かっていました。ダイコン掘りのため何度も通った国道6号線ですが今年は風景が一変しています。仙台から向かって左側は、津波のために作付けが行われていないのもそうですが、向かって右側も寂しいのです。4ヶ月経ったいまだに漁港から流されてきた船が、田んぼの中にごろごろと横たわっていました。

さて、香川県の陶親父の会から保育所の夏祭りの映画会で集めていただいたという貴重な支援金をいただきました。保育所のために使っていただければということでしたので、大震災、そして原発事故により、避難を余儀なくされていたこの保育園に昨日、全額寄付をいたしました。陶親父の会からは以前から、自分たちにも何かできないだろうかと連絡を受けており、今回の支援となりました。このような親父のつながりを私たちは誇りに思っています。

さて、この保育園は30km圏内にあったため、圏外の放射線量の低い公民館を借用し臨時保育園を開設しました。当初100名の園児予定が転出などにより現在22名と減少しながらも0歳児から5歳児までの保育を続けているそうです。行政からの運営費が7月からようやく6～7割支給されることになったそうですが、借用している公民館で完全給食もおこなっているそうです。

これまで保育と自然との関わりを大事にしてきた保育園ですが、放射能への心配から他の多くの保育園では子どもたちは外で遊ぶことができない現状とのことです。保育の場で、この心身の成長期にこそ外で遊ぶことの大切さを園長先生は語っておられました。さいわいこの保育園は放射線量が少ないところに施設を再開設することができたので、一定の時間なら元気に散歩もできるとのことでした。近々、自然とのふれあいを大切にと工夫を凝らしてきた避難元の原町区保育園の園庭の表土交換や屋根の洗浄なども行う予定とお伺いしました。

一刻も早く、子どもたちが外で元気に遊び回れるような解決ができることを自分の問題として考えております。